

2024年1月28日（顕現後第4主日、B年）

牧師メッセージ

「神の国への道標」

（マルコによる福音書 1:21-28）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音、カファルナウムでの出来事にイエスの生涯、この世で主イエスがなされたことが凝縮されています。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」（マルコ 1:15）イエスはこの宣言とともに活動を始めました。イエスの到来とともに、神の国が訪れ、イエスによって神の国が明らかにされます。今日の福音で、イエスは汚れた霊を追放しました。汚れた霊とはわたしたちを神から離れさせようとする霊、力ですから、汚れた霊からの解放とは神との関係の回復を意味します。このことにより示されること、つまりイエスとともに訪れる神の国とは、誰もが神によって祝福された命に満たされた世界だということです。イエスによって汚れた霊から解放されたところに、神の国が広がっています。

時を経て、今を生きるわたしたちはどうすれば神の国に生きることができるのでしょうか。それこそ、「悔い改めて、福音を信じること」によってです。「信じる」というと、今日の福音のような奇跡を信じることができるのか、ということばかりに気を取られてしまうかもしれません。しかし、それではポイントがズレてしまいます。大切なのはこのことを通してイエスは何を示されたのか、ということです。奇跡というのは「しるし」です。たとえば、「落石注意」とか「一方通行」などの道路標識は、安全のためなどに象徴的な絵や記号を用いてわたしたちに必要な情報を知らせてくれる「しるし」です。標識から正しく情報を受け取っているなら、標識はきちんと目的地へとわたしたちを導いてくれます。奇跡もそれと同じです。わたしたちを導いてくれるものとして見るのが大切なのです。ならば、今日の奇跡が何をわたしたちに示すものなのかといえ、神の国を知らせてくれる標識、道標です。今日の奇跡物語は、ここにイエスとともに神の国が訪れている、ということをわたしたちは示すものです。神はイエス・キリストを通して汚れた霊からわたしたちを解放してくださる方であり、この方を信じるからこそ、神の国、神と共に生きられる世界が訪れることを今日の奇跡は示しているのです。イエスの奇跡とは、そういう標識なのです。奇跡が「本当か？」というのは二次的な問に過ぎません。大切なのは、その標識の先に神の国があることを信じて、その標識が示す方へと歩むことです。それが、福音を信じるということです。

福音を信じるというのは、イエスによって示される標識の先に神の国があると信じることです。そして「悔い改める」とは、違う標識を見ていた人が、イエスという標識、イエスによって示される標識を見て歩みを変えることです。良い霊と良くない霊があるのと同じように、わたしたちの世界には標識が乱立しています。その中で、汚れた霊の示す標識ではなく、イエス・キリストという標識、しるしを見て歩いていく先にこそ、すべての命が祝福された世界＝神の国が広がっています。そのことを信じて歩むことこそ、「悔い改めて、福音を信じる」ことです。神の国を示すイエスの標識を見つめて歩いていくことができますように。